

四国学院大学
第8回おはなしもっと賞コンクール
手作り絵本部門・おはなしライブ部門

《募集要項》

四国学院大学社会福祉学部社会福祉学科保育士養成コースでは、地域における子育て・子育て支援事業の一環として、次代の担い手を発掘し、育てるために、本年も標記の絵本コンクールを以下のとおり開催します。中学生・高校生・一般の皆さんがふるって応募して下さることを期待しています。

記

I. 部 門 ① 手作り絵本部門(中学生・高校生・一般の各部)

② おはなしライブ部門(中学生・高校生の各部)

II. 応募資格

① 手作り絵本部門：中学校の部は中学校在籍中の生徒。高校の部は高校在籍中の生徒。一般の部は制限なし。

② おはなしライブ部門：中学校・高等学校在籍中の生徒。

③ ①、②両部門を通して個人応募・グループいずれでも応募できます。

中学、高等学校在籍中の生徒は①②両部門に参加することができます。

しかし、同一部門の複数参加はできません。

III. 募集期間

2015年8月3日(月)～9月25日(金)当日消印有効

IV. 応募先

765-8505 香川県善通寺市文京町3-2-1

四国学院大学研究室プラザおはなしもっと賞コンクール係 (郵送に限ります)

V. 参加費

無 料

VI. 本選日時

2015年10月24日(土) 14:00～16:00

VII. 会 場

四国学院大学ノトスタジオ

VIII. 表 彰

4部門共に 1位 2万円

2位 1万円(いずれも図書カードによります)

全部門で一組 特別賞(紀伊國屋書店協賛)

おはなしライブ部門終了後、直ちに結果を集計・審査して表彰を行います。

IX. 募集要項

①手作り絵本部門(中学生・高校生・一般の部)

1. 募集内容

① 3～4歳児を対象とした手作り絵本。

② 絵・ストーリーともにオリジナルで、使用することばは日本語に限ります。

③ 作品は発表・未発表を問わないが、同様のコンクールですでに受賞したものは応募できません。

④ 応募は1人または1グループで1作品のみとします。

⑤ただし、本コンクールで入賞した者は、その後2年間は同一部門での審査対象とせず、展示参加のみ

とします（中学生の部で入賞した者が、翌年高校生部の部に参加した場合は審査対象となります）。

2. サイズ制限

- ① 21×30cm（閉じた状態で A4、見開き A3）×厚さ 5 cm以内。
- ② 表紙を含めずに見開き 8～20 面まで。

3. 素材

自由（紙、板、布 etc.） ただし、台紙は画用紙、ケント紙等の紙に限ります。

4. 応募方法

次の書類を同封してコンクール係宛に郵送してください。

- ① 作品（荷造りは応募者の責任で行い、紛失破損等について大学は責任を負いません）
- ② 必要事項を書き込んだ応募用紙（大学ホームページからもダウンロードできます）
- ③ 参加証返送用封筒（82 円切手を貼り、返信先住所氏名を表に明記したもの）
- ④ 作品返却用封筒（必要な金額の切手を貼ったもの）

5. 審査方法

- ① 予備審査：5点を選出（通過者には通知し、大学ホームページでも公表します）。
- ② 本選：予備審査を通過した作品の中から、来場者の投票数も考慮に入れて本学教員が審査します。
- ③ 審査基準：独創的で対象年齢にふさわしいストーリーと絵であり、子どもによく伝わる展開であること。製本（簡易自家製本でよい。例：貼り合せる、リボンで綴じるなど）に至るまで、作品に対する愛情が感じられること。

6. 展示

応募作品のすべてを、本選当日展示します。過去に入賞した者の展示参加を含め、オープン参加とし、広く絵本に親しめることを目指しています。

②おはなしライブ部門（中学生の部・高校生の部）

1. 募集内容

- ① 課題絵本と自由選択絵本、計 2 冊の読み聞かせ。
- ② 2015 年度課題絵本：「ぐるんぱのようちえん」（西内ミナミ作 福音館書店）
会場に大型絵本を用意します。持参のものをを用いることもできます。
- ③ 自由選択絵本は、3～4 歳児を対象としたもので、出入りを含めて 6 分以内（時間厳守）。
発表経験のある作品の再演を認めますが、同様のコンクールで受賞したものの再演は認めません。
ただし、本コンクールで入賞した者は、その後 2 年間は同一部門に出場することはできません（中学生部門で入賞した者が、翌年高校生部門に出場することはできます）。
- ④ マイク・背景・小道具・音響・照明等の使用は認めません。
- ⑥ 1 人、または 1 グループで 1 作品 1 回のみ参加できます（重複参加を認めません）。

2. 応募方法

次の書類を同封してコンクール係宛に郵送してください。

- ① 必要事項を書き込んだ応募用紙(大学ホームページからもダウンロードできます)
- ② 参加証返送用封筒(82 円切手を貼り、返信先住所氏名を表に明記したもの)

3. 審査方法

- ① 応募者多数の場合は予選を行います。予選を行った場合、予選では課題絵本、本選では自由選択絵本の読み聞かせのみを行うこととします。

- ② 予選の有無、予選の日時については参加証返送時にお知らせします。

- ③ 審査基準：30名ほどの子どもに十分聞こえる発声であること。

対象年齢に適した自由選択絵本であること。

対象年齢と絵本の内容に適した表現であること。

審査は来場者の投票数も考慮に入れて審査員が行います。

X. 参考

3～4歳児のことばの発達および絵本の選択については同封の資料を参考にしてください。

XI. 読み聞かせワークショップ

えほんの読み聞かせでは、読み手と子どものコミュニケーションが何よりも大切にされます。そこで、今回初めて、えほんを子どもとどう共有するのか、についてのワークショップを行います。コンクール出場を考えている中高生の皆さん、ぜひご参加ください。ただし、ワークショップ参加はコンクール出場の条件ではありません。また直接成績に影響するものでもありません。

- ① 日時 2015年9月19日(土) オープンキャンパス模擬授業の1コマとして
- ② 交通手段 オープンキャンパスの送迎バスを利用できます。お問い合わせは本学入試課まで。
- ③ 詳細は大学HPのオープンキャンパスサイトをご覧ください。

XII. 本選への交通手段

本選当日は、本学の大学祭を開催中です。一緒に楽しみください。送迎バスの運行はありませんので、公共交通機関をご利用ください。本学駐車場をご利用になれます(有料：¥300/回)。なお、審査への交通費、宿泊費等の支給は行いません。

XIII. 問い合わせ先

四国学院大学研究室プラザおはなしもっと賞コンクール係

〒765-8505 香川県善通寺市文京町3-2-1

電話 080-3926-7251 Fax 0877-63-7251

E-mail stokunaga@sg-u.ac.jp

3歳～4歳児のことばと絵本（参考資料）

1 3歳児のことば

600～1000語を理解でき、「から」「たら」「のに」などを使い、理由を説明できるようになる。「だって」と言い訳もし始める。「そして」「だから」「それから」などを用いて2文をつなぐことができる。ひとまとまりのお話を理解でき、自分でも話そうとする。会話が盛んになり、自分のことを語りたがり、会話が続くようになる。「なぜ」「どうして」という質問を盛んにする。

2 3歳児と絵本

イメージがふくらんでくるので、絵本の中の世界、お話を楽しめるようになる。絵本の主人公や出来事を自分のことのように感じ取ることができる。物語を楽しむようになるので、集中時間も飛躍的に伸び、少しくらいわからないことばがあってもイメージを膨らませることで、乗り越えていける。

3 4歳児のことば

1500語前後までことばが増加する。過去・現在・未来という時間を理解し始め、「一週間」や「しばらく」といった時間の長さも感じられるようになる。「～しながら～する」「・・・だけれども～する」など少し込み入ったイメージを理解できるようになる。汚い言葉への関心が高まり、「うんこ」「おしっこ」などに興味を持つ。

4 4歳児と絵本

さらに、主人公の体験を主人公のものとして楽しめるようになる。いっしょにハラハラしたりドキドキしたり、えほんの世界で様々な経験をすることができる。

5 3～4歳児への読み聞かせ

- (1) あまり登場人物の数が多くなく、また登場人物間の関係が分かりやすく、複雑でないもの。
- (2) ストーリーが一本の筋でできており、複雑でないもの。
- (3) 場面転換にあまり大きな飛躍のないもの。
- (4) 友だちを意識し始める時期なので、友だち、きょうだいの出てくる絵本も良い。しかし、まだ協力してみんなで何かをするという世界は早すぎる。一緒にいて楽しいという感覚を伝える物なら適している。

6 3～4歳児絵本例

「かいじゅうたちのいるところ」「さつまのおいも」「はじめてのおつかい」
「こんとあき」「ソフィーはおこった」「どんなにきみがすきだかあててごらん」
「にゃーご」「めっきらもっきらどおんどん」「うんちっち」「うんちしたのはだれよ」
「もっちゃうもちやう」「どろんこハリー」「あめふりあつくん」
「からすのパンやさん」「ぐりとぐら」等多数

(これらはあくまでも参考図書です。ここから選ばなければならないという意味ではありません)